

法学部・法科大学院での教育現場から思うこと



東京大学

法学部長 山本 隆司 氏

教育随想

月報 岡崎の教育



令和5年2月1日

2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
東京大学 法学部長 山本 隆司 氏	
この人に聞く……………	2
革のパズル職人 ガロチャ(大山 敬志) 氏	
羅 針 盤……………	2
北中学校 校長 柴田 和美	
ふれあい……………	3
根石小学校 教諭 西澤由貴子	
特 集……………	4
身近なものでできる災害への対処と備え	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
対面での卒業証書授与式(平成5年)	
この本を……………	8

私は東京大学の法学部と法科大学院(今、テレビドラマの題材となっている「ロースクール」)で授業を行っている。また、研究者の養成に携わっている。以下、私が大学教育の現場で気をつけている点を綴ってみた。

第一に、法学部の大教室(大学入試の際にテレビ撮影される東大の教室)での授業や、法科大学院で全ての学生が履修する授業では、議論が錯綜しているテーマについて、学生の思考が空転しないように、何が重要な点か、どこで間違えやすいかを解きほぐして説明し、その意味で効率的に教えるようにしている。

第二に、少人数のゼミでは、学生が自身で問題を発見すること、問題に対して筋道立てて議論を組み立てること、異なる考え方を聴いて議論を充実させることを重視している。

第三に、研究者の道に進む人には、若いうちに、直接の成果に結びつかない、一見無駄に見える調査や思考をどれだけ重ねるかによって、その後息長く研究成果をあげ続けられるかが決まると説き、励ましている。

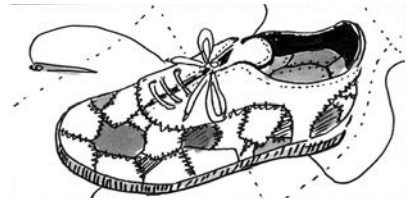
こうした教育の三つの方針・ステップは、いずれも必要かと思うが、学生も教員も時間に限りがある中で、うまく組み合わせる実現することにはかなりの工夫を要する。これら三つのバランスが崩れると、試験で点数を取ることが自己目的化したり、逆に、独善的な議論を展開したりするだけになってしまう。

似た問題状況は、小中学校の教育現場にもあろうかと思う。東京では、受験競争が小学校、否、その前から始まり、余裕をもって適応できる少数の生徒を除き、往々にして生

徒に「のびしろ」がなくなってしまう。その点で、私は高校まで岡崎市で学び、幸せな環境をいただいたことに感謝している。今後も関係者の方々の知恵と力を結集して、岡崎市で生き生きとした学びの場が創られることを、願っている。

(やまもと りゅうじ)





一人一人の想いを形にする
唯一無二の一足を目指して

革のパズル職人

ガロチャ(大山 敬志)氏

「オリジナルデザインの靴を作ろう
と思ったきっかけは—

高校時代から毎週一足スニーカー
を買うような生活をしていました。
しかしソールの形や色が自分のイ
メージとは合わず、自分で作れたら
いいと思っていました。

社会人になってからは働きながら、
土日に靴作りについて学ぶため、専
門学校に通いました。その後、靴の
修理屋へ転職し、とにかく靴につい
て学び続けました。当時から革は一
枚で購入すると高価でした。そこで、
端切れをパッチワークのように組み
合わせて靴を作れないかと考えたの
がきっかけです。二足目に作った靴
で「装苑編集長児島幹則賞」を受賞
することができました。この靴なら
勝負ができると確信しました。

「唯一無二の一足を作る魅力とは—
お客様と対面し、色合わせの相談
をしたり、商品の良さを直接伝え
たりすることで、お客様と一緒に想
いを形にしていける。これが唯一無二の
一足を作ることの魅力だと考えてい
ます。会話の中で、お客様の好きな
物や好きなことが分かると、そこか
らイメージして「これを取り入れて
みては」と提案します。お客様の期
待を上回るよう努めています。

また以前、祖父母に買ってもらっ
たランドセルを、恩返しのために、
祖父母の眼鏡ケースにリメイクしま
した。思い出の詰まったものを、他
の形に変えて大切な人に繋いでい
く。そんな想いに寄り添うことので
きるリメイクも大切にしています。

どちらもお客様に喜んでもらえる
ことが、私の原動力となっています。
—他にないデザインで勝負すること
は勇気のいることですが—

「革のパズル職人」と名乗っている
のは、私一人です。だからこそ、他
にないデザインで勝負したいと考え
ています。しかし、人は初めて見る
ものを受け入れられないこともあり
ます。他にないものなので、先に不
安がくるのでしょうか。私が作った靴
も、初めはなかなか受け入れられま
せんでした。「縫い目が多く、雨は
大丈夫ですか」と尋ねられることも
ありました。大切なことは、お客様
と丁寧に対話する中で、その魅力を
伝えていくことだと思っています。
今では自動車部品メーカーや酒造
メーカーなど、さまざまな職種の
方々とコラボしています。このよう

な機会をいただけることも、他にな
いデザインで勝負してきたことが認
められたからだとうれしく思います。
—好きなことを長く続けていくうえ
で大切にしていることは—

楽しむことです。靴を作っている
瞬間が一番楽しいと感じています。
今も木型に合わせて靴を手作りして
いますが、靴を完成させ、最後に木
型から靴を抜く瞬間に毎回感動が生
まれます。これまで数えきれないほ
ど靴を作ってきましたが、この感動
は今も変わることはありません。

今は好きな靴作りのために工程や
販売など一人で全部やりたいと考え
ています。自分の決断が正解だった
か不正解だったかは、誰にも確認で
きません。しかし、全て自分で決め
ることができると楽しいですし、
長く続けられると思います。

今後挑戦したいことは—

自分の作ったものが海外で通用す
るのか試してみたいと思っています。
夢を人に伝えることで日本の大型
百貨店へ出店できたように、アメリ
カでも挑戦したいということをおう
人会う人に伝えるようにしています。
これからもお客様の想いを聞き、
お客様と一緒に唯一無二の一足を形
にしていけることができる職人であり
たいと思っています。



氏名 おおま たかし
生年月日 昭和五十三年
十一月六日
住所 岡崎市矢作町



地域と共にある学校

北中学校

校長 柴田 和美

本校には、二十年続く「輝づなソー
ラン」がある。スポーツフェスタ
(体育大会)での、三年生の演技種
目である。コロナ禍以前は、ソーラ
ンの発表時間になると、保護者の他
にも地域の方々や卒業生で会場は埋
め尽くされていた。この三年間は入
場制限をした上での開催だが、それ
でも今年度は約千人もの保護者に見
守っていただいた。

一、二年生は、三年生の舞を憧れ
の眼差しで見届ける。そして三年生
になったときには、リーダーとなり、
リーダーだけに許される舞祝を着
たいと、多くの生徒が強い思いをも
つ。今年度もあとわずかととなり、卒
業を控えた三年生が、来年度のリー
ダーを目指す後輩に、「ソーランを
引き継ぐ会」を行っている。先輩か



笑顔の花

根石小学校

教諭 西澤 由貴子

「これでいいのかなあ。」

心配顔のAさんが、よく口にする言葉である。Aさんは小学三年生。クラスでの役割をすっかり果たせる子である。しかし、「こんなふうでいいのかな」「この考え方でいいのかな」と確認したり意見を求めたりする姿が多いことが気になった。Aさんに心配顔が多いのは、自分の考えに自信がもてない表れだと感じた私は、Aさんのがんばりを友達に褒めてもらうことで、自分に自信をもち、笑顔いっぱいになってほしいと思った。国語の時間、挿絵をじっくりと見ているAさんに「絵が気になるのかな」と声を掛けた。「だって、すごく悲しい顔をしているよ」と答えたAさんを見て、今だ、と思った。「本当だね。表情からも気持ちが変わるね。よく気付いたね」と考えの良さを伝えると、ほっとした顔を見せた。もう一

歩前へ。学級全体に発言を促すと、「Aさん、すごいじゃん。確かに。絵なんか見てなかった」と、仲良しのBさんが新しく発見したかのようにうれしそうにAさんを見た。Aさんの顔がほころぶ。さらに、「本当だ。悲しそうな顔してる。絵もちゃんと見た方がいいね」とCさんが続くと、ついに笑顔がはじけた。授業後、「先生、ほく、うれしかった。ほくの意見、みんなが褒めてくれた」と、さらさらした目で話した。いつもの「いいのかなあ」はなく、自分の意見の良さを認められた喜びが感じられた。

体育の時間には、ミニハードル走の二本をお願いした。戸惑いながらも、得意のバネを生かして、すいすい跳び越える姿に、拍手が起きた。次の時間には、自ら二本に名乗り出た。「Aさん、がんばっているね」と声を掛けると、「このクラス、みんないいところを見付けてくれるし、失敗してもどんまいって言ってくれるから」と笑った。その言葉を学級全体に紹介しながら、私は、「このクラスって本当に素敵だね。みんな大好き！」と伝えずにはいられなかった。きちんとやらなくてはと思うあまり心配になり、確認してからしか進めなかったAさんが、どんな意見も受け入れてくれる友達の存在に安心感を覚え始めていることがわかった。読書感想画を描いたときは、「ちよっ

とうまく描けなかった」と言いながらも晴れやかな顔でBさんに見せていた。「うまいじゃん。楽しそうなのが伝わるよ」と答えるBさんの表情も同じように笑顔だった。

算数科の授業では、「ほく、こうやって考えたんだけど」とAさんがチーム内の友達に自分の考えを伝えるとき、「その考え方もあるか。それもいいね」とAさんの考えを受け入れ、学び合う姿が見られた。

今のAさんに「いいのかなあ」という心配顔はない。「次は何やるの」と生き生きとした笑顔の花が咲く。私は、この笑顔がずっと咲き続けるように寄り添い、温かい言葉のシャワーをかけていきたい。そして、子供たちの素敵な一歩を大切に育てていきたい。



ら後輩へ、それが本校の伝統である。

本校だけに限らず、これまで私が勤務してきた学校では、竜海中男子の「組体操」や女子の「さくら」、甲山中の「棒術」など、学校として大切にしていた演目があった。代々受け継がれ、先輩たちに負けない完成度を目指して、ひたすら練習する生徒たちの姿を見てきた。そして保護者だけでなく、卒業生や地域の方々までも毎年の出来栄を楽しみにし、共に生徒たちががんばりに歓声をあげ、拍手を送る。それは地域と学校の一体感を感じる時でもあった。

こうした体育大会の演目に限らず、各学校には、独自の大切にしている活動がある。それは保護者や地域の方々の理解はもちろん、何より児童・生徒の愛校心を育む絶好の教材にもなっている。そして、その学校に勤務する職員にとっても、学校、地域を理解する役割を担っている。

学校は地域と共になくはならない。地域の方々に「おらが学校」と思ってもらえるように発信し続けることは、学校としての使命であると言えるのではないだろうか。

時代は移り変わっていく。しかし、地域と共にある活動は、これからも大切に受け継ぎたいものである。

防災

防災

その1

用途を変えて活用する



長机を使った簡易風呂

▲長机と角材を結束バンドで固定



▲ビニールシートを掛け、簡易風呂の完成

身近なものでできる災害への対処と備え

東日本大震災から、来月十一日で十一年が経過する。月日は経つものの震災による被害の甚大さを思い出す日となる。一方、子供たちにとっては、日本で起きた震災について知り、備えの大切さを考える機会にもできる。そこで、災害時に身近な物を用いてできる対処法と、今すぐできる備えを紹介する。

防災課の担当者は、「予期できない災害が起こった時には、命を守り繋いでいくための行動が最重要です。その時、手に入るものを活用することが大切です」と話し、避難所で衛生的に過ごすために長机を活用した風呂作りを紹介していただいた。また、ダンボールや新聞紙など身近にあるものを利用した、衣食住を支える道具作りについての説明があった。さらに、「岡崎市役所防災課出前講座」に申し込めば、防災課職員が学校を訪問し、体験活動ができると教えていただいた。

食料品や水、衛生用品や医療品など、防災グッズを備えている人は多いだろう。ただ、日頃から意識を高めておくことはなかなか難しい。

南中学校生徒会が、生徒市議会で必要最低限の防災グッズを常に携帯できる『防災ポトル』を提案した。かばんの中に常に入れておくことで、防災意識を高めることができる優れたアイデアである。また、岡崎市の防災緊急メール『防災くん』に登録すると、災害情報を得ることができる。地震情報だけでなく、記録的短時間大雨情報や、竜巻注意情報など様々な情報を得ることができ、とても有用である。

身近なものの思わぬ使い道を知ったり、防災意識を高めたりすることで、大切な家族や自分の命を守ることに繋がることが願う。

★新聞紙を使って★



▲簡易スリッパ

★ダンボールを使って★



▲簡易ベッド



▲簡易トイレ

「段ボールで作ったベッドが思ったより丈夫でびっくりしました。いろんな物がいざというときに役立つのだと思いました。」根石小児童の感想より

★チラシを使って★



▲ラップをかけ食事用の紙皿

防災 その2 廃品を加工して利用する

★作り方の指導・岡崎市役所防災課出前講座・婦人自主防災クラブ など

おがき防災緊急メール「防災くん」



- ①コードを読み取って、登録サイトへ。
- ②登録サイトにある entry@city.okazakibosai.jpへ空メール(件名や本文を入力しないメール)を送信します。
- ③「メールサービス本登録のご案内」が届きます。
- ④メール本文にあるアドレスへアクセスし、配信を希望する情報を選択します。

下記項目を複数選択できます。

- ・気象情報
- ・土砂災害警戒情報
- ・記録的短時間大雨情報
- ・竜巻注意情報
- ・地震情報(震度)
- ・南海トラフ地震臨時情報
- ・市からのお知らせ
- ・浸水警報装置情報

必要な情報を 選択してね!



登録完了

▲緊急時の情報源となる「防災くん」

★その他の災害時情報源

「岡崎市防災ポータル!」

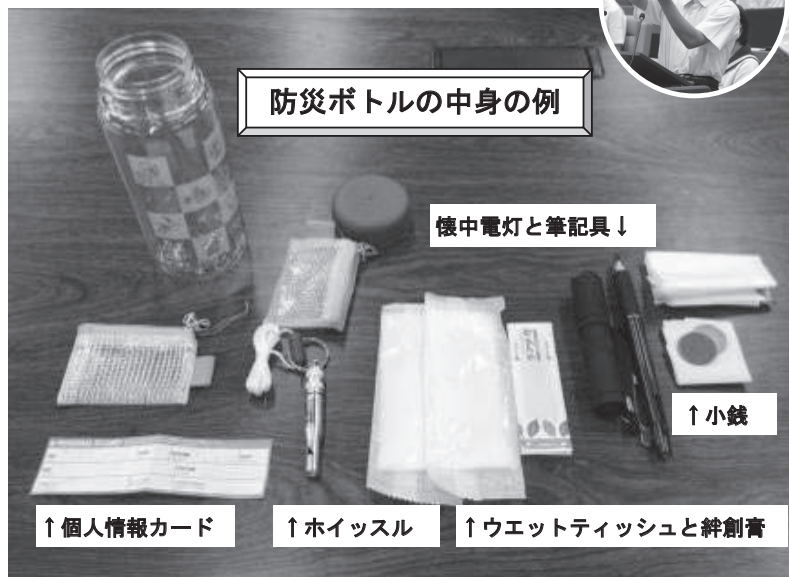
<https://okazaki-bousai-portal.transmod.jp/>

「災害用テレフォンサービス」050-5433-9166

防災 その3 防災意識を高める



防災ボトルの中身の例



懐中電灯と筆記具↓

↑小銭

↑個人情報カード

↑ホイッスル

↑ウエットティッシュと絆創膏

▲南中学校生徒会提案「防災ボトル」



●最新情報

◆第66回岡崎市小中学校書き初め展

一月二十一日(土)から二十二日(日)まで、岡崎市美術館で小中学校書き初め展が開催された。昨年度は、入場者数を制限して行ったが、今年度は、入場者の制限はせず、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて行った。

市内の各小中学校及び聾学校、愛知教育大学附属学校から、各学級の代表作品二点ずつ、計二〇〇〇点以上が展示された。また、書き初め作品に加え、今年度も鉛筆を正しく持つて文字を書く力をつけることを指導目標とした硬筆書写作品も展示した。

三年ぶりに入場制限がな



かった本年度は、会期中、六千五百十四人が会場を訪れた。来場者は、児童・生徒たちが授業の学びを生かし、心を込めて書いた書道作品を、一つ一つ丁寧に鑑賞していた。これらの作品は、文集「おかげさき」に掲載される。

●ハートピアだより

【変わりつつあるハートピア】

近年、ハートピアは少しずつ変化をしています。これまで「適応指導教室 ハートピア岡崎」としていた名称を、「岡崎市フリースクール ハートピア岡崎」に変更しました。市内の中学校に設置された校内フリースクール（F組）に対して、ハートピアは校外に設置された岡崎市のフリースクールという位置付けになります。

校内フリースクールの設置が進められたことによって、中学生の通所生が減ってきました。一方、小学生の割合が増え、ハートピアの雰囲気も随分と変わってきたと感じています。今回は、ハートピアの受け入れの体制を紹介します。ハートピアに通所希望の子供は、まず二週間程度の体験通所をします。かつては体験通所で、ハートピアで終日(十時～十五時)、それもほぼ毎

日通所できそうな場合に正式通所としてきました。この条件では、なかなか正式通所にならない子が出てきてしまうという課題がありました。現在は、定期的・継続的に通所するという条件はありませんが、「週に何日でもよい」最終日までなくても構わない」とし、幅広く受け入れをする体制に変更しました。

その他にも、日課の「学習の時間」という言葉に抵抗を示す子がいるので、「ほれぼれタイム」(スワヒリ語で『ゆっくりいこう』という意味)に変更したことやハートピアの紹介動画を作成するなど、通所に対する抵抗をなくそうと改善を図ってきました。

ハートピアでは、子供の社会的自立を促すために、「居場所作り」や「生活リズムを整えること」に力点を置いて支援しています。また、人と関わることの楽しさや喜びを感じられるように、コミュニケーションが必要となるカー

ドゲームを利用するなど、活動を工夫しています。家庭に引きこもってしまう子供を一人でも減らしたい。そんな思いで日々支援を続けています。



▲みんなでカードゲーム



●表彰関係

◆第30回全国中学校駅伝大会

○男子の部

27位 矢作北中

◆第71回愛知県中学校駅伝大会

○区間賞女子

5区 甲山中 富澤 茉那

◆第15回東海・北陸地区中学生技術・家庭科創造ものづくり教育フェアin岐阜 創造アイデアロボットコンテスト

○計測・制御部門

3位(全国大会出場) 福岡中 長網 時生

5位 福岡中 畠中 拓実

9位 福岡中 久原 征磨

大畑 晴宗

太田 悠斗

小野 航輝

村田 和友

◆第33回MOA美術館全国児童作品展

○書写の部

文部科学大臣賞

井田小 近田小茉莉

◆第59回全国児童才能開発コンテスト

○作文部門 高学年の部

文部科学大臣賞

竜美丘小 加藤 美虹

◆第66回日本学生科学賞

○中学の部

入選1等

額田中 鈴木 風雅

◆第41回全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会

最優秀賞・名古屋法務局長賞

南中 中根 鏡子

優秀賞

新香山中 齊藤菜々香

入選

六ツ美中 石川 苺奈

◆第90回全国書画展覧会

○書の部

筆都大賞

特選

竜南中 吉田 敢紀

金賞

竜南中 天野 心結

金賞

竜南中 小久保七海

金賞

竜南中 橋口 星花

金賞

竜南中 村松 志彩

金賞

竜南中 日下 凜

金賞

竜南中 川本 楓花

金賞

竜南中 植木梨桜菜

金賞

竜南中 坂井 楓凜

金賞

竜南中 竹下 杏奈

金賞

竜南中 青山 芽依

金賞

竜南中 野澤 朋迦

金賞

竜南中 星野 充佳

金賞

竜南中 井崎 壮志

金賞

竜南中 兵藤 沙紀

金賞

◆第2022年度水質パトロール隊事業 優秀レポート

○学校部門

優秀賞

常磐小

◆第55回JA共済小・中学生交通安全ポスターコンクール

○小学校五年生の部

佳作

小豆坂小 横井 凜花

◆第22回読書感想文「こころの木」

こころの木賞

竜美丘小 牧野 晋路

優良賞

竜美丘小 内田 寧音

優良賞

竜美丘小 加藤 祐希

徒作品コンクール

○ポスターの部

佳作

竜南中 山田 芽愛

◆JA共済小中学生書道・交通安全ポスターコンクール

○書道

条幅の部

金賞

美合小 鈴木 綾乃

佳作

竜南中 天野 心結

◆愛知県防火作品展

○小学校六年ポスターの部

入選

上地小 町田 新

◆第47回三河の菊まつり

○学校創作花壇

愛知県知事賞

豊富小

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

翔
南
中

岡

義
輝

対面での卒業証書授与式 (平成5年)

写真提供：六ツ美北部小学校

この年、六ツ美北部小学校としては初めて、対面式の卒業式を挙行した。在校生と保護者は体育館中央の演台を囲むように並び、ひな壇の二百二十二名の卒業生の門出を祝った。卒業生の一人一人の顔をしっかりと見てもらえるようにという思いで対面での式を執り行った。ひな壇を作るために、学校周辺の企業から足場を借りた。卒業生は「最後の学習」として、在校生と保護者に返事や態度、呼びかけや歌を披露した。

形は変われど、巣立ゆく子供たちを送り出す節目として、卒業証書授与式が学校行事の中で最も大切であることは、いつの時代も変わらない。そしてそこには、次のステージに進んでいく子供たちの背中を、そっと押す温かな心がある。



豚汁が振舞われたマラソン大会。湯気が立つ大鍋へ集まる子供たちにお椀を渡す保護者の笑顔は温かい。寒さに耐えて頑張った子供たちは、真っ赤な頬を膨らませて熱々の豚汁を食べた。子供は、周りの人の温かい愛情に支えられ、やがて来る春に大きく飛躍する。

とホ

如目ツ



▲雪は冷たくて気持ちいい。(六北小)

他にない唯一無二の一足を生み出す原動力は、お客様の喜ぶ笑顔にある。だからこそ、妥協せず完成させるのだ。カラフルで様々な革の端切れを、まるでパズルのように組み合わせる「皮のパズル職人ガロチャ」。彼もまた唯一無二の靴職人である。

常日頃から、いつ起きるか分からない災害に備えることが大切であることは、明白だ。しかし、わかっているものもきちんと備えるのは、やはり難しい。必要な物の入手や備蓄の方法を工夫して、「備えあれば、憂いなし」でありたいものである。



*未来の教育設計図～ AI 時代にこそ「生命知」を羅針盤に～
大迫 弘和・松田 雄馬
日本標準 ¥2,200

心に残った一文
教育は子どもたちと先生のそれぞれの生命知が結びれて成立するものです。

「生命知」とは人間が活着している中で發揮する「知」であり、生き物ならではの賢さそのものをいう。AI 研究者の松田氏と国際バカロレア教育の先駆者であり詩人の大迫氏が、生き方の設計図が必要であると教育論を展開する一冊である。子供たちが活躍する未来を考えると「〇〇でなければならない」の発想は封印すべきである。未来を閉ざす言葉になりかねないから。よりよく生きるために生命知を存分に發揮すれば、自ずと個々の未来の教育設計図が作られると語る。多様性を認め合い、安心して心が守られる空間作りに力を尽くしていきたい。

*僕に方程式を教えてください
少年院の数学教室 高橋 一雄・他
集英社 ¥990
*運動脳 アンデシュ・ハンセン
サンマーク出版 ¥1,500
*バナナの魅力を100文字で伝えてください 柿内 尚文
かんき出版 ¥1,400
山中小学校 保田 眞美